

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>栄仁会グループホームおおわだの郷は、「地域の中に根付き、地域の中で愛され、地域の人々とともに歩む」を理念としており、常にそれをグループホームにおける介護の中で実践するようにしている。</p>	○	町内会などを通じて地域への啓蒙を更に進めていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>常に目に付く所に理念を掲げ、理念に基づき、地域との係りを大切にするように毎日心掛けている。</p>	○	町内会や地域の催し物などには出来るだけ参加するようにしているが、すべての行事に出れる訳ではなく、都合がつかない場合も多く、別の形での交流を模索中である。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>契約時には理念を説明し、月々の通信や面会時などには、地域との交流の大切さなどを話している。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日々の挨拶や声掛け等はもちろん、近所から花や野菜、柿などを頂いたり、持ってきていただいた時等は一緒に花を生けたりお茶を飲んだり少しは日常のお付き合いができてきている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会の催し物や地域活動に参加しできるだけ参加し、協力している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に運営推進会議等を行い、認知症の方の介護方法や相談等は受けているが、地域の高齢者の暮らしに役立つ話し合い等の取り組みは充分ではない。	○	民生委員の方とも連携し、近所で認知症でお困りの方などの相談に応じる機会を設定する事などを検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価で明らかになった問題点や改善点について、外部評価を受けた直後は、意識的に実践しようと努力するが、時間の経つうちにいつの間にか以前の状態に戻ってしまうと言うのが現状である。	○	改善に向けてのチームあるいは委員会など形のあるものを組織する必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に利用者・利用者の家族・町内会の会長・地域包括支援センターの委員・事業所の介護職員で、平素のグループホームの生活や取り組み等を報告し、意見質問等を聞きサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム運営上で生じた疑問点や問題点について、市の介護保険課の地域密着型サービスの係の職員に問い合わせるなどの連携を常に取りようようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の権利や財産を守る上で、必要とあらば、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を積極的に活用していく事に行っている。	○	地域福祉権利擁護事業については、更に理解を深め、利用できる方がおられるか検討したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者が行っている日々の介護の中で、そうとは知らないうちに虐待に当たる行為を行っていないか、スタッフミーティングなどでお互いに検討しあっている。	○	介護者が自分の介護行為が虐待にあたるのではないかとの問いかけを常に行なう必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、利用契約書、重要事項説明書等を説明し、疑問点があれば、納得していただけるように説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一応管理者が苦情処理を受け持つが、スタッフ1人ひとりが苦情を受ける窓口と言う意識をもち、入居者やご家族の言動に注意を払う。また、市の介護相談員を受け入れ、職員に直接言えない様な事があれば、そのような人たちに相談や要望を伝えてもらえる場を提供している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活ぶりや健康状態等は、面会時や請求書送付時の時挨拶文の中で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が苦情を受ける窓口となっているが、スタッフひとりひとりが入居者やご家族の言葉を受け止め、苦情については、そういう事実があった事、それに対してどう対応したかを出来るだけ他の家族の方にも説明するようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回スタッフ会議を行い、入居者の方についてのカンファレンスや運営上の問題点などを話しあい、より効果的な方法を話し合い、実践とフィードバックを行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事の時などは計画に合わせて職員配置を行う事があるが、利用者やご家族の状況に合わせて臨機応変に職員の配置を調整する事は難しい。	○	マンパワーや労働契約の問題など、困難な問題があり、そのあたりをいかにクリアーするかが今後の課題である。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職に際しては、その影響が出ないように個々人に合った対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内や、法人内の研修、また外部の研修など、様々の研修に参加するように促しているが、十分とは言えない。最低限京都府の実施する認知症介護実践者研修には順次受講する事になっているが、その他については個々のスタッフのモチベーションに任せている。</p>	○	<p>職員が研修に出やすいような環境整備を整える必要がある。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>京都府認知症グループホーム協議会に入会し、他のグループホームとの交流を図ったり、グループホーム同士で相互研修の機会を設けているが、単発的で、継続的なものになっていない。</p>	○	<p>継続的に相互交流を図ることや多くのグループホームとの交流を進めたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人が相談事業を行う業者と契約し、職員はいつでもそれを利用出来る制度はある。また、法人の行う厚生活動、あるいは担当理事や管理者が相談にのる事などを行っている。</p>	○	<p>気軽の利用出来る環境整備を整える必要がある。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>正職員についてはひとりひとり勤務評価を行い、それに基づいて昇給制度がある。また、業績に応じた褒章制度がある。</p>	○	<p>非常勤職員についても勤務評価制度を導入し、個々人の努力が報われるような制度作りを構築中である。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時面談し、本人が入居に至るまでの経緯や生活歴本人家族の不安や要望等を伺い、グループホームとしてどのようなサービスが提供できるか説明している。入居後もできるだけ本人が話しやすい雰囲気をつくりひき出す努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>23と同様であるが、入居後も面会や通信等で連絡し、出来るだけ不安軽減、家族の要望等取り入れよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族から相談を受けた時は、本人にとってそれが必要かどうかを検討し、現状で事業所としてできる事やその他のサービス等も視野にいれ話し合い対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随分とこの件に対しては力をいれており、本人ご家族の思い等も考慮し、入居寸前から職員、家族、関係者等との連携をとり、スムーズに場の雰囲気に馴染めるよう努力している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護スタッフの年齢層、性別等でそれぞれの家族の立場になりながら、喜怒哀楽を共にし、教えていただく事が多く、感謝の気持ちを持ちながら支え合う関係を保っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、いつも一緒に過ごせない事情を踏まえ、現状生活や病状等の説明を行い、家族と共有しながら時には協力していただきながら本人を支えていく関係を築くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅で家族関係がうまくいかなかった利用者も、入居という形をとりある程度の距離をおく事と職員が中に入る事で、かなりより良い関係が築きあげられてきたとご家族からも聞かれています。今後も嫁になったり孫になったり時には演技したりして支援していきたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望は全くなく、事業所から声掛けや外出外泊ちよつとした散歩等も促すが、なかなか実践できない。	○	機会あるごとに、本人の体調を考慮しながら、馴染みの人との関係が途切れないよう声掛け支援していく。小さなイベントの誘い、遠足等の誘い等・・・
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの個性・性格・病状等を勘案しながら、席替え等も考え利用者同士が良好な関係が保たれるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了前にかなり頻回に本人・家族と今後について話し合うが、やむ得ず退居された後も、面会したり連絡を取って関係が断ち切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居してからも、従来の生活がどのような生活だったかを把握する努力を重ね、本人らしく生活できよう充分本人の希望家族の希望を受け入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関しては、入居後も関係者等に連絡あるいは面会等を利用し把握するよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々にあった生活をして頂くために、日々の生活ぶりの変化等を見極め、穏やかな生活が送れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議や本人とのたわいない会話や希望、家族の希望も取り入れ、現状で一番いい個々の介護が出来るようスタッフ会議を行い計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しや状態変化時に話し合い介護計画を立てている。家族には面会時を利用し話し合っている。	○	スタッフ会議時は記録しているが家族と話した時しっかり記録にかけていない為、その都度記録する習慣を介護職全員が理解する必要がある。よって勉強会の機会をつくる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに対しては全ての職員がその都度記録し、情報は申し送りやノート等で共有し、話し合い計画見直し実践している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ本人の希望や家族の希望を取り入れる努力をしている。特にお誕生日や外出等の希望は柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア活動の受け入れ、デイサービスとの連携で小学校や消防や地区の活動に参加したりし協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在地域包括支援センターとの協働はしていない。	○	地域包括支援センターとどのような協働が可能か検討する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望どうり、かかりつけ医協力医療機関との定期的診察、急変時の対応等は蜜に連携をとり適切な医療が受けられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>その方・その時にあった丁寧な言葉遣いや対応が出来る。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者の中には、意思表示が出来ない、されない方がおられ、その方たちに対し、説明不足のまま促し、支援していることもある。</p>	○	色々な手段を用いて、その方達のニーズを引き出していく。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>利用者の認知度重度化、職員の人数により、その日をどのように過ごしたいかなど聞かず、支援している事がある。</p>	○	人員不足の中でも、利用者全員を対象にしたプログラムを実施している。壁画作りや習字など、個別的な支援も必要と感じている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>自分で出来ない方には、さりげなく声をかけ居室にて見守るなどして支援している。利用・美容に関しては、希望される方はその方の望む店へ行っていただく。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>野菜を切ったり、食器洗いなども、認知度の重度化に伴い職員の声掛けにより、していただいている状況。下膳は各自してもらっている。(足の悪い方は職員で…)</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>おやつ以外他の物を好まれる方がいない。おやつは職員が用意したものを提供していることがほとんど。その為、季節感のある物など、考えながら提供している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツの尿パットを使用される方が多くなった。失敗されて不快な思いをされ続けないようにこまめにパットチェックを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日は決めさせていただいている。夜はせず…。それ以外に希望があれば、準備します。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間を決めず、その方のリズムに合わせて生活を送ってもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の趣味などを、今現在の利用者に合わせて、促したり、声掛けしたり支援をしています。		外出希望される方にはスタッフとお出かけしてもらっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持ちたいと希望されている方には、管理してもらっていますが、それ以外の方はホームにて管理しています。日常の買い物時にお金を渡し実演する事もある。非常に緊張されるが…		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・ゴミ出しなど一日の中で少しでも多くの利用者さんに外の空気を吸ってもらおうと努力しています。しかし、職員の人数により、全員が1日1回とは言えない。Bユニットはかなり努力していると思う。(車椅子・手引き歩行等の方も少し)		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を言われる方に関しては、日取りを決め、個別または他の行きたいであろう利用者に関き、複数で行く事も…。ただし、外出希望される(行き先を決められる)方は、極わずか。当日、急に言われても希望に添えない事もある。誕生日は受け持ちを中心に実行中。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をお貸しし、番号を押したりなどお手伝いを…。ポストの投函は付き添いする。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は、特に決めていない。訪問時は居室にてゆっくり過ごしていただいている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所時から身体拘束していない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけていない。しかし、今後職員の人数の減少や利用者の徘徊の激しい日のことを考えていかなければならない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	外出傾向のある方の動きに注意している。出入り口には、防犯用の感知装置と鈴が付いていて、鳴ればすぐに誰なのか声を出して確認したり、様子を見に行ったりしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に応じて、取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者には、前もって声をかけ、注意を促している。	○	細かな対処方法など勉強会などで知識を学ぶ必要あり。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員によって個々に差があり、全てとは言えない	○	定期的に勉強会を開き、どのような状況になっても対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の避難方法は定めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族にも説明し、その方に一番良いと思われる方法・対応策を提案している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の申し送りやノートに記載し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員理解できていない。前から服用している薬など忘れがちである。新しく処方された薬などはしばらくの間、申し送りしている。	○	その方が今、どのような病気で、どのような薬を飲んでおられるか再確認の場として勉強会をひらく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事時やティータイム、おやつの時など水分摂取の声掛けをしている。毎日の健康体操参加の呼びかけも行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	モーニングケア時、昼食後、ナイトケア後に声掛けや見守りなどで支援している。(個別ケア実践中)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべくたくさんの食材を少しずつ食べていただくよう調理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	「感染予防対策マニュアル」があり、外出後は手洗いうがい等で予防している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理する前の手洗い、食器乾燥機の使用し、まな板・包丁・布巾の消毒実施。冷蔵庫に残っている食材を使い、メニューを考えたり配慮している。使い捨て手袋の利用		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはいつも利用者さんの活けた花を飾るよう努めている。利用者さんにとってもくつろげる場となるようにベンチを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんと季節に合わせて、壁画づくりや、飾り付けをし、季節感を味わっていただいている。テーブルに花を飾るなど。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全体のバランスを考え、席替えをしたりもしているがソファの利用も結構多い。一人になりたい時には居室で過ごしていただく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた物など持参してもらっている。家族や本人とも話し合いながら自宅で生活していた時の雰囲気を中心にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個々で温度調節をされることもあり、乾燥など注意を呼びかけている。毎日利用者さんとしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館全てバリアフリー用の構造の為、出来るだけ自立した生活がおくれるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなど目印をして声掛けなどで誘導している。認知症の度合いや理解力等を考慮し混乱や不安が起こらないように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭は木々が植わっており、利用者には使用できないが、わずかな空間を利用し、プランターに身近な野菜や花等を植え利用者を一緒に世話したり楽しんでいる。近くの畑の世話は出来なくなってきている。	○	畑に関しては世話は出来なくなってきているが、簡単な花や、あまり手のかからない野菜等を植え、土に楽しんでもらったり観賞したりする機会をもうけていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全ての入居者に十分に満足してもらえる介護の提供を目指しているが、思うように行かない場合もある。不満や不安を持たれる事もあると思われる。しかし、どのような場合でも誠意をもって接し、十分に入居者と話をし、不快感だけが残ってしまうような事にならないように心掛けている。